

## 2021 年度通常第 3 回理事会議事録

- 1 開催日時：2021 年 12 月 4 日（土） 13 時 00 分 ～ 16 時 00 分
- 2 場所：夢の島マリーナ会議室およびオンライン会議システム  
ZOOM の併用
- 3 出席理事：（敬称略、順不同）  
馬場益弘、中澤信夫、富田三和子、中村隆夫、川北達也、大村雅一、望月宣武、  
河野博文、桑原啓三、平松隆、中村和哉、永井真美、尾形依子、中野佐多子、  
橘田佳音利、長塚奉司、高橋祐司、加賀谷賢二、森田豊三、黒川重男、磯部君江、  
吉留容子、菊池邦仁、新田肇、岩瀬喜貞、安田大助、宇都光伸、関一人、高間信行  
以上 29 名
- 4 出席監事：児玉萬平、上野保、紙谷雅子 以上 3 名
- 5 オブザーバー：安藤淳総務委員長、松田一隆財政委員長、柳澤康信広報委員長、増田開ルール委員長、  
前園昇オリンピック強化委員長、金子純代キールボート強化委員長、川合紀行外洋  
計測委員長、服部好彦ジャパンカップ委員長、  
鈴木保夫参与、小山泰彦参与、斎藤涉参与、平出篤志外洋安全委員

### 議事の経過及び結果

新型コロナウイルス感染症対応のためオンライン会議システム ZOOM を併用し開催した。出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わることを確認し、適時的確な意見表明がお互いに出来る仕組みになっていることを参加理事に確認し、議案の審議を下記のとおり開始した。

（定足数の確認）

理事 31 名中、出席者 29 名により、定款 34 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

定款 33 条に基づいて、馬場益弘会長が議長となり、2021 年度通常（第 3 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を川北達也専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、永井真美、中野佐多子の両理事が任命された。

### 【審議事項】

#### 1. 2021 年度第 2 次補正予算案について

松田財政委員長から資料に基づき、2021 年度第 2 次補正予算案について説明があった。

各委員会における事業活動計画の実施状況および収支見込をふまえ、2021 年度第 2 次補正予算案を策定した。

事業活動収支について第一次補正比、事業活動収入は 94,543 千円減少し 489,464 千円に、事業活動

支出は 140,046 千円減少し 533,821 千円となった。収支のバランスについては 44,357 千円の支出超過。事業活動収入について事業活動収入のうち、第 1 次補正比で補助金等収入が 70,767 千円、負担金収入が 52,989 千円とそれぞれ大きく減少し、これはオリンピック強化委員会の事業活動の縮小やワールドイズワン 2021 大会の中止等によるもの。また、募金・寄付金収入が 43,500 千円と増加しており、これは特別加盟団体ライトブルーセーリングクラブ関係等の寄付金収入によるものである。

事業活動支出について事業費支出のうち、第 1 次補正比で渡航費支出が 21,300 千円、滞在費支出が 14,990 千円、旅費交通費支出が 29,755 千円、雑役務費で 103,190 千円それぞれ減少している。一方、大会講習会開催費は 54,130 千円増加。雑役務費の減少はワールドイズワン 2021 大会の中止によるもので、大会講習会開催費の増加はライトブルーセーリングクラブへの助成実施によるものである。

投資活動についてオリンピック強化積立金については取崩額・積立額ともに 1,000 千円減額し 2,000 千円に補正とした。環境積立金の取崩額は 50 千円減額し、520 千円に補正とした。なお、第 2 次補正予算案とし特定費用準備金積立の追加計上をしていないが、2021 年度決算をみながら第 3 次補正予算案時に計上予定である。

これらの結果、第 2 次補正予算（案）では 51,013 千円の収入超過（第 1 次補正予算比 45,453 千円増加）を見込んでいると説明があった。

満場一致で承認された。

## 2. ガバナンスコード適合性審査ヒアリング実施における追加・修正について

安藤総務委員長から資料に基づき、ガバナンスコード適合性審査ヒアリング実施における追加・修正について説明があった。

2021 年 9 月 22 日に開催されたガバナンスコード適合性審査ヒアリングにおいて、既提出の自己説明・証憑書類を追加・修正の上、2021 年 10 月 8 日に添付の通り再提出しました。なお、本年度自己説明は、2021 年 10 月末日までに連盟ホームページ等で公表するよう統括団体（JOC）から指示に対応するとの発言があった。

満場一致で承認された。

## 3. 2022～2023 理事・監事推薦候補者の推薦手続について

安藤総務委員長から資料に基づき、2022～2023 理事・監事推薦候補者の推薦手続について説明があった。

定款並びに理事及び監事候補者推薦手続規則により、現理事（任期 2 年）の改選を行う。任期は、新理事を選任する評議員会の開催日（2022 年 6 月）を起点とする。JSAF 理事及び監事候補推薦手続規則（理事会内規）第 7 条に定める「全国加盟団体代表者会議による推薦候補者の選定手続き」における一般推薦候補者及び会長推薦候補者の選任を行うために実施する投票は、原則として電子投票方式とするとの発言があった。

大村常務から電子投票について個人情報などが漏れないよう細心の注意を払う旨、依頼があった。

満場一致で承認された。

#### 4. 役員候補者推薦管理委員会の設置について

安藤総務委員長から資料に基づき、役員候補者推薦管理委員会の設置について説明があった。

役員候補推薦管理委員候補者は、平賀威様（再任・委員長候補）、浜崎濠次郎様（再任・委員）、戸張房子様（再任・委員）、作田智恵子氏（新任・委員）であるとの発言があった。

満場一致で承認された。

#### 5. 2021 年度 JSAF 定期表彰について

安藤総務委員長から資料に基づき、2021 年度 JSAF 定期表彰について説明があった。

連盟表彰候補者を推薦する資格を有する理事、委員長、加盟・特別加盟団体代表宛 総務委員会発信「2021 年度挙行定期表彰等に係わる件(受賞候補者推薦依頼)」の回答結果に基づき取り纏めを行った。功労賞 8 名、功績表 2 名、優秀指導者賞 2 名、栄光賞 7 名、優秀競技者賞 1 名、感謝状 41 名が対象者であるとの発言があった。

満場一致で承認された。

#### 6. 日本フィン協会脱会について

安藤総務委員長から資料に基づき、日本フィン協会脱会について説明があった。

川北専務から、フィンの国際大会に選手が出たいと言っても今後国際大会に出場できなくなるため、各理事からのご意見聞きたいと発言があった。

中野理事から、個人的に楽しんでいるセーラーが海外のレースに出場できないのは、危惧されると発言があった。

川北専務から、12 月末をもって退会となっているが、周知の時間が短く、選手からの反応がないのではないかと思う、脱会を 12 月ではなく、今年度中にしたらどうかと提案があった。

平松理事から、ワールドセーリングへの加盟料はどうするのかと発言があった。

望月常務から、JSAF の運営規則では加盟及び脱退は理事会承認になっている。フィン協会全員の同意なのか疑義が残る。加盟団体登録の際は代表者名、加盟団体印などあるが、今回の脱会届には、フィン協会の代表者、加盟団体印がなく正式なものではないと思う。代表者名、加盟団体印を押した脱退届を再度出してもらい必要がある。脱会の時期に関しては理事会で決めることができると発言があった。

中野理事から、オリンピックの事しか考えていないように見える、セーリング自体の普及と言う面からすれば、マイナスに見える。ワールドセーリングの加盟団体については、寄付を募るなどすれば

いいのではないかと、個人で活動している方が、世界選手権に行こうとした際に大会に出場できないのは、競技人口の減少につながると思うと発言があった。

増田委員長から、NFが存在しない国に関してはMNAに変える運用はないのか、JSAFからIFに相談をしたらどうかと発言があった。

川北専務から、フィン協会がJSAFに加盟してなくてもJSAFに所属していれば、世界選手権などにエントリーは可能ではないかと補足説明があった。IFに確認が必要だが、もし可能であれば選手のリスクはなくなると発言があった。

川北専務から、フィン協会から捺印のある書類の提出、会員リストの提出、国際フィン協会には日本フィン協会からの移行の確認を行う形で進めていくと発言があった。

日本フィン協会の脱会に関しては、満場一致で承認された。  
選手への支援策を検討することになった。

## 7. 支援寄附金制度における取扱承認の件（滋賀県）について

安藤総務委員長から資料に基づき、滋賀県セーリング連盟から支援寄附金制度における取扱承認の件について説明があった。

満場一致で承認された。

## 8. 環境キャンペーン補助金制度見直しの件について

永井環境委員長から資料に基づき、環境キャンペーン補助金制度見直しの件について説明があった。

現在、環境キャンペーンは36の全日本のメジャーな大会で、申請があり、環境に配慮して運営した大会に対し補助金を支給している。地球温暖化防止、海洋プラスチックの削減のため、自分達の事として本気で環境保全を考える事は急務である。環境は、中長期ビジョンにも連動しており、現在横断幕を掲げて行う環境啓発の形骸化の見直し、および更なる環境活動の拡大のため補助金を見直すとの発言があった。

黒川理事から、資料の表現のみでは、申請する団体が分かりにくいのではないかと、補助率などを示した方がわかり易いのではないかと発言があった。

永井委員長から、工夫が必要だと思う。予算の関係もあるので、引続き検討すると発言があった。

宇都理事から、イベントを行う際、事前に補助金の申請が必要なのか、事後でも良いのかと質問があった。

永井理事から、事前の申請が必要と説明があった。

河野理事から、海その愛委員会と環境委員会を絡めていけばいいのではないかと発言があった。

望月常務から、環境のスポンサーと一緒に、どのように事業を進めていくかをJSAF全体で決定で

きればいいと発言があった。

大村常務から、海その愛委員会、環境委員会を絡めたビーチクリーン活動は行っている。この様な例を出していき、常任委員会も含めて、協力していけばいいと発言があった。

大会への支援については満場一致承認された。

資料の追加項目については、継続協議で2月理事会審議とした。

## 9. 医事科学委員長の交代について

川北専務から資料に基づき、医事科学委員長の交代について説明があった。

医事科学委員長 山川雅之氏ご逝去に伴い、新委員長に高橋正哲委員が後任となった旨、発言があった。

満場一致で承認された。

## 10. 公益財団法人日本パラスポーツ協会 (JPSA) 「障がい者スポーツ協会協議会」への JSAF 登録申請について

高間障がい者セーリング推進委員長から資料に基づき、公益財団法人日本パラスポーツ協会 (JPSA) 「障がい者スポーツ協会協議会」への JSAF 登録申請について説明があった。

障害者セーリングの国内1本化 (PSAJ との NF 機能統合を含め) にするために、PSAJ に代わり JPSA への登録申請を JSAF 障がい者セーリング委員会がしたい旨、発言があった。

大村常務から、助成金の関係もあるので、パラスポーツ協会と今後についてどのように交渉していくのかと質問があった。

高間委員長から、JPC に日本障がい者セーリング協会が加盟していなかったため、助成の申請が全て却下された。障がい者セーリング推薦委員会としてはこのようなことがないように、JSAF と日本障がい者セーリング協会が助成申請を JPSA に行った場合は、JPSA が審査を行い、どちらか1団体のみ助成を受けられる。JSAF と日本障がい者セーリング協会から助成金申請を行わないように調整中であると説明があった。

川北専務から、日本障がい者セーリング協会は日本で唯一のガバナンスコード不適合とみなされた団体である。JPSA は来年度以降、日本障がい者セーリング協会へ連絡を何度も行っているが、音信不通のためガバナンスコードの観点からも、JPSA に加盟させないという動きになってきている。そのため JPSA から JSAF に加盟して欲しいと連絡が来ているという流れであると説明があった。

大村常務から、ガバナンスコードについては、加盟団体、特別加盟団体への指導は昨年からは始まり、JSAF からの指導も遅かった一方的に突き放したりするのではなく、しっかり連絡を取り、JSAF の特別加盟団体として指導したうえで、理解と協力を最後まで努力すべきであると発言があった。

望月常務から、日本障がい者セーリング協会の代表者と会うために何度もコンタクトをしてきた。これからも話し合うための努力は継続していくが、話し合いの場が持てないので、パラスポーツ協会に NF として仮に JSAF と日本障がい者セーリング協会から申請が出れば、打合せが発生し、話し合

いのが出来るのではないかと発言があった。

河野理事から、JSAF から様々なアプローチをしたことに対して日本障がい者セーリング協会から一切の回答がない、障がい者選手の海外派遣に対して不平等な対応など繰り返してきてガバナンスコードの観点からも、JSAF の特別加盟団体として加盟していること自体、個人的に疑問に思っている。JPSA も JSAF か日本障がい者セーリング協会かの二者択一になり本来あるべき形になる。JSAF の特別加盟団体としてサポートするのは良いが、今後も改善の余地がない場合は JSAF の特別加盟団体として認めるかどうかの判断が必要であると発言があった。

望月常務から、特別加盟団の継続については、ガバナンスコードで加盟団体規定を制定しないため、課題として残っている。JSAF のガバナンスコードの対応していく中で、今回の河野理事からのご指摘も対応していくと発言があった。

菊池理事から、日本障がい者セーリング協会の活動実績はあるのかと発言があった。

高間委員長から、千葉、蒲郡の 2 団体である。申請と内容についてはあるが、人数的には競技申請があるかは不明で、大きな成果はないと発言があった。

岩瀬理事から、愛知の団体の設立にかかわっていた。代表者の方が障がい者セーリングの基地を作ろうという動きがあり、他の水域にあった船を集めたが、置き場代を払わずにいた。年に何回かの合同練習会も人が集まらずに、集合して解散するだけだったと報告を受けていると発言があった。

保留 3 名、賛成 27 名で賛成多数のため JPSA への登録申請が承認された。

## 【協議事項】

### 1. 中長期戦略（強化計画）について

前園オリンピック強化委員長から資料に基づき、中長期戦略（強化計画）について説明があった。

高間理事から選手育成について年齢制限を設けているのかと質問があった。

前園委員長から、今回の計画は出来るだけ若年化を掲げていて、大学を卒業してからでは遅いと考えている。次世代の募集については 13 歳以上としている。卓球などは、もっと小さい頃から行っているが、適正を見極めも必要と考えており若年化はセーリングのみならず他の団体も必要である。この考えは、あくまでオリンピックでのことで、パラリンピックについてはもう少し幅を広げて考えていくと回答があった。

加賀谷理事から、地方の水域の選手発掘はあると理解していいのかと発言があった。

前園委員長から、現在の地方水域の選手を発掘までのプランは出来ていないが、良い形を見つけ後々できたらと考えていると回答があった。

菊池理事から、海外でのレースで語学力も必要と考えているが、考慮されているのかと発言があった。

前園委員長から考慮していると回答があった。

中村和哉理事から、セーリングの強化拠点はスポーツ庁から指定された和歌山のナショナルトレーニングセンターがあり、この施設を利用することが国の強化戦略の一つの軸になっており、しっかり記載した方がいい、地域との連携、選手の発掘を整理した方がいいと発言があった。

川北専務から、キールボート、パラ競技の領域もどう取り組んでいくかの中長期戦略は組立てておく必要がある。パラ競技については高間委員長から発言ありましたが、キールボートの領域について考える必要があると発言があった。

大村常務から、2028年のロサンゼルスオリンピックではチームレースが採用されている。今回のパリオリンピックではオフショアが採用予定であったがキャンセルになってしまったが、ワールドセーリングは今後の採用に向けて、毎年世界選手権を開催することを掲げている。チームレース、オフショアについては経験や知識も必要になるので、年齢については考慮する必要がある。一つの艇種に特化して練習するのではなく、色々な艇に乗って経験を積ませ複合的な選手を育てていってはどうかと発言があった。

川北専務から、2月の理事会までの間に協議事項に出していただける、たたき台のようなものを外洋常任委員会で全体像など作成してもらえると質問があった。

大村常務から、今回のような資料は作成できないが、項目などはまとめていくと回答があった。

桑原理事から、他のスポーツでは海外にいた日本人が急に日本に帰ってきて代表としてオリンピックに出るケースが数多くあるが、海外にいる日本国籍を持った有力な選手は把握しているのかと発言があった。

前園委員長から、把握はしていない。一つ把握しているのは日本とニュージーランドのハーフで、ずっとニュージーランドにおり、オリンピックメダリストと練習が出来ていたため、東京オリンピックでも11位とメダルレース一步手前の成績を残せたと思っている。その他何か情報があれば、情報が欲しいと発言があった。

菊池理事から、スポーツ庁の普及マーケティングと強化を絡めて行うことは出来ないのかと発言が

あった。

川北専務から、スポーツ庁に実施計画は出しているが、修正・変更は可能なので、追加できるが、基本マーケティングが優先と回答があった。

望月常務から、2028年のオリンピックの艇種については白紙の状態である。キールボートが採用されるかは未定であるが、入るとすると470MIXがなくなる可能性が高く、日本としては大きな問題である。キールボートになっても良い成績が取れるように強化していくのが大切であると発言があった。

## 2. 2022年度事業方針（案）について

川北専務から資料に基づき、2022年度事業方針（案）について説明があった。

JSAFに加盟する団体や会員の満足に向け、ガバナンスを強化し、スポーツ・コンプライアンスを遵守できる組織体制を整えつつ、ビジョン実現に向け策定されたJSAF中長期計画をスタートさせる。また、公益法人として、今までセーリングに関わりのなかった人々に対しても、広くセーリングの魅力を発信し、様々な場面で関心や接点を持っていただくことで、セーリングを発展させるとともに、セーリングスポーツ及びJSAFを応援していただく個人・企業・団体を拡大する。2年後に迫ったパリオリンピックに向け、新しい「勝ちに行く体制」を構築し、メダル獲得を目指すとした。

望月常務から、JSAF方針に基づいて各委員会の事業計画を作成すると思うが、この方針のどれに沿っているかが問われると思う、委員会が考えている事業方針がどこかに記載されていると言う事でしょうかと質問があった。

川北専務から、委員会からの要請も含めて作成している。各委員長からもご意見をいただきたいと回答があった。

## 3. 運営規則改訂（常任委員会、専門委員会、賛助会員等）/ドーピング防止規程/通信委員会の設置について

安藤総務委員長から資料に基づき、運営規則改訂（常任委員会、専門委員会、賛助会員等）/ドーピング防止規程/通信委員会の設置について説明があった。

増田ルール委員長から、JSAFドーピング防止規定について名称をJSAFアンチドーピング規定に改称する方がいい、規定中に日本ドーピング防止規定と記述があるが、現在の名称は日本アンチドーピング規定であると発言があった。

川北専務から、ご指摘の件を全て改正する話であったと思うので、対応していくと発言があった。

望月常務から、医事科学委員会から出てきた規定では既にアンチドーピング規定になっているので、合わせていく必要があると発言があった。



次回の理事会に向け、文言の修正などを行っていく。

大村常務から資料に基づき、通信委員会について説明があった。

#### 4. 利益相反規程の策定について

安藤総務委員長から資料に基づき、利益相反規程の策定について説明があった。

望月常務から、連盟関係者は、事業を推進するに際しては、利益相反が不可避免的に発生することを十分に認識し、適切に対応することが求められる。すなわち、利益相反が生じることを防ぐことや、連盟関係者の利益相反行為を一律に禁止することよりも、連盟の意思決定の場面において、利益相反が生じていることを連盟関係者が適時に宣言し、ときに意思決定に参加することを控えるなどの適切な対応をすることにより、連盟の意思決定の透明性と妥当性を確保することが重要である。

この規程の目的は、利益相反に関する基本的な考え方並びに利益相反の防止及び管理に関する事項を策定することにより、連盟関係者が利益相反の特徴を明確に理解した上で、連盟の事業を公正かつ積極的に推進できる環境を整備することにあると発言があった。

連盟の活動をしていく上で、発生するのは仕方がない、どのように管理して、利益相反行為を防いでいくのかである。この規定は個々がしっかり把握していただく必要があると発言、補足説明があった。

川北専務から、ガバナンスを効かせ、透明性を明確化し正しく運営できているかを共有していくことがポイントであると発言があった。

平松理事から、外洋計測委員会は、ほとんどが業界、プロの方の場合どのようにすれば良いのか、全員が利益相反になる場合どうすれば良いのかと質問があった。

望月常務から、各委員会に業者、プロの方増えるのは想定している。重要なのは JSAF から業者に発注する際の決議に入らないことで、通常の業務でプロの方が入っても利益相反が生じなければ問題ない、どの場面で利益相反が生じるかで、意思決定の際に出たり入ったりしていただくことがある。全員に利益相反が生じる可能性がある場合は、常任委員会、外洋常任委員会、理事会などにエスカレートして決めていただくケースもあると回答があった。

増田委員長から、対象にジャッジ、レースオフィシャルズが上がっていた、選手とジャッジの利害関係と同じことを想定されているのかまた、選手の選考について具体例を上げ説明していたが、今回の範囲に含めていただきたいのは、JSAF が主催する大会のオフィシャルズの選考、利害関係、利益相反についても考えていただきたい。ワールドセーリングではアポイントメントのワーキングパーティーがありワールドセーリングのジャッジの選考には関わらせない形をとっているが透明性が欠けているのではないかと世界各国のジャッジから非難が上がっている。JSAF が主催する大会の JSAF が選

考するジャッジ、アンパイア、レースオフィシャルズに関する利害関係も考えていただければと思うと発言があった。

望月常務から、ワールドセーリングではジャッジは利益相反に入れていないが、他の NF では入れている為、今回は混ぜ込んで作成している。ジャッジ、レースオフィシャルズを入れるのかの議論もあり、ルール委員会、レースマネジメント委員会で議論いただきフィードバックが欲しいと回答があった。

レースオフィシャルズの利益相反については、どのように規定に入れるかなど考え、2月の理事会に提示できればと思うと回答があった。

#### 5. 横浜ベイサイドヨット倶楽部 (YBYC) 特別加盟団体申請について

安藤総務委員長から資料に基づき、横浜ベイサイドヨット倶楽部 (YBYC) 特別加盟団体申請について説明があった。

特に異論はなく次回理事会の審議事項に上がることになった。

#### 【報告事項】

- (1) 業務執行理事報告
- (2) 会員増強プロジェクト報告
- (3) 財政健全化プロジェクト活動報告
- (4) 総務委員会報告 (全国加盟団体代表者会議参加メンバー登録依頼について/2022年度メンバー登録について)
- (5) オリンピック強化委員会報告
- (6) オリンピック準備委員会報告
- (7) WS 総会報告・ASAF 総会・ORC 総会報告
- (8) レースマネジメント委員会報告 (公認申請等進捗状況一覧他)
- (9) ルール委員会報告
- (10) 普及指導委員会活動状況報告

川北普及指導委員長から、国体監督の資格を1年延期することについて報告があった。

#### (11) e-Sailing 委員会報告

尾形 e-Sailing 委員長から、ネーションズカップについて報告があった。

#### (12) 「ワールドマスターズゲームズ 2021」の再延期について

中村和哉理事からワールドマスターズゲームズ 2021 の再延期について報告があった。

#### (13) レディース委員会報告/山崎名誉会長偲ぶ会について

富田レディース委員長から12月18日に吉田愛選手のオンライン講演会があるので、奮ってお申込

みくださいと報告があった。

**(14) 2022JSAF カレンダー販売について**

平松事業開発委員長からカレンダーの販売があるので、是非ご購入くださいと報告があった。

**(15) 2022 度事業計画・予算提出依頼**

松田委員長から 2022 年度の予算の作成、提出依頼について報告があった。

**(16) 2022 年行事予定 (案)**

**(17) 2021 年度メンバー登録数(10 月 31 日現在)**

**(18) 2021 年度通常第 2 回理事会議事録 案 (9 月 4 日)**

**(19) その他**

セーリングスピリッツ協会役員改選

ボートショー2022 JSAF ブース企画(案)

第 20 回アジア競技大会 (2026 愛知・名古屋) パンフレット

2020 年 1 月 29 日全国代表者会議について

2022JSAF 新年会の中止について

JSAF 事務局年末年始のお知らせ

2021 年 12 月 4 日

議 長	会 長	馬 場	益 弘
議事録署名人	理 事	永 井	真 美
議事録署名人	理 事	中 野	佐多子
	副 会 長	中 澤	信 夫
	副 会 長	富 田	三和子
	副 会 長	中 村	隆 夫
	専務理事	川 北	達 也
	常務理事	大 村	雅 一
	常務理事	望 月	宣 武

監 事 児 玉 萬 平

監 事 上 野 保

監 事 紙 谷 雅 子